

# (別紙2)一覧表

災害復旧（関連）事業費は、翌債申請時の「箇所別調書及び理由書」の様式が簡素化されており（事業計画の記載省略）、当初計画の始期が記載されていないため、事業計画を確認し、始期を年月日で記載する。  
**令和元年・令和2年発生災害であっても、令和3年度予算のため、事業の始期はR3.4.1以降となる。当初計画の始期が「翌債申請時の繰越事由の発生時期」以降になっている事例が散見されるので注意。**

当初の支出負担行為済額  
 令和4年度への繰越額ではない。

施工業者から工事遅延の申し出があった日  
 = 事故発生日のため、合致する。

箇所名 ①	所在 ②	事業内容 ③	具体的災害 (被災状況) ④	要繰越額(円) ⑤	支出負担 行為済額 (円) ⑥	事故発生 年月日 ⑦	事故事由		当初の 事業計画 ⑩	明許繰越し (翌債) 後 の事業計画 ⑪	事故繰越し後 の事業計画 ⑫
							類型 ⑧	事由 ⑨			
○○線	××市大字□ □	道路 現場吹付法枠 L=30m	令和2年9月台風○号により被災した道路の復旧事業	8,000,000 <b>(1,000,000)</b>	15,000,000 <b>(1,000,000)</b>	<b>R4.10.1</b>	作業員	○○線道路復旧工事の契約締結後の <b>10月1日</b> に請負業者から、工事実施にあたり作業員の確保を行ったところ、令和2年7月5日に発生した豪雨災害後の労働需要の急増から、予定人員の4割しか確保することができなかった旨報告があった。請負業者は、人員確保に努めているものの、予定を大幅に下回る人員で行っていることから、5ヶ月の遅延が生じ、年度内の完成が困難となった。	R3.12.3 ~ R4.3.31	R3.12.3 ~ R4.12.20	R3.12.3 ~ R5.5.20
■■川	××市大字■ ■	河川 ブロック積 L=15m	令和2年7月5日の豪雨により被災した河川の復旧事業	10,000,000	10,000,000	R4.10.3	入札不調 ①	3月8日に交付決定を受けた後、補助事業者による入札を行ったところ、令和元年7月5日に発生した豪雨からの災害復旧事業の集中により、建設労働者不足となった。この影響により応札がなく、2回入札不調となり（2回目の入札日（10月3日））、9ヶ月程度の遅れが生じた。その後、規模や工期を見直した上で契約を行うことができたが、人員確保の状況を踏まえた計画変更により予定工期に遅れが生じ、年度内の完成が困難となった。	R3.10.1 ~ R4.3.31	R3.10.1 ~ R4.10.31	R3.10.1 ~ R5.7.31
○×線	××市大字○ ×	道路 コンクリートブロック 積 L=22m	令和2年9月台風○号により被災した道路の復旧事業	3,000,000	8,000,000	R4.6.3	他事業 等との関係 ①	○×線道路復旧工事を5月8日に着工したものの、6月3日になって▲▲工事との調整が必要となることが判明した。○×線道路復旧工事に係る■■工事部分は、▲▲工事が完了しないと本工事に着手できない部分があるが、▲▲工事は●●の影響により遅れを生じており、令和3年6月上旬から11月下旬の約6ヶ月間工事を中断せざるを得なかったため、年度内の完了が困難となった。	R3.11.1 ~ <b>R4.3.31</b>	R3.11.1 ~ <b>R4.10.31</b>	R3.11.1 ~ R5.6.30
<b>合計を記載</b>				21,000,000 <b>(1,000,000)</b>	33,000,000 <b>(1,000,000)</b>						



**本年度予算を前年度分と併せて事故繰越しを行う場合は、本年度分を外書き、かつ書き添えて記載**

翌債申請時の「箇所別調書及び理由書」には、**当初計画の終期の記載がないため、事業計画を確認し、年月日を記載する。令和2年度予算のためR4.3.31までの日付となる。**

翌債申請時の「箇所別調書及び理由書」の「**工事完了予定年月日**」と合わせる。

**事故発生日**  
 ・作業員・・・施工業者から作業員不足による工事遅延の申し出があった日  
 ・建設資材・・・施工業者から資機材不足による工事遅延の申し出があった日等  
 ・入札不調①（年度内に契約できた場合）・・・最後の入札不調日